



巻 頭 言

「想 い」

財団法人 日本植物調節剤研究協会 理事
塩野義製薬株式会社 植物薬品開発部長 山中一寛

弊社の植物薬品（農薬）事業は、1963年にフランスのローヌ・プーラン社より植物調節剤の「トライロン・トマト」（現トマトラン液剤）と殺虫剤の「キルバール液剤」を導入販売したのが始まりです。除草剤は1963年に米国のイーライリリー社（現ダウ・アグロサイエンス）より畑作・野菜用の土壌処理剤である「トレファノサイド」を日本国内で開発を開始し、1966年にトレファノサイド乳剤を、1968年にトレファノサイド粒剤2.5を新発売したのが始まりといえます。いずれの剤も現役で頑張っています。

トレファノサイドの適用である野菜・畑作場面では、「雑草は手で取り除くものである」との考えが開発当初まだ根強く、土壌処理剤を用いて雑草の発生を抑えろとの概念がまだ十分育っていませんでした。そのため、農薬登録は取れたが肝心のトレファノサイドの普及はなかなか進まず苦労の連続でした。しかしいずれ水田同様野菜・畑作場面でも除草剤による雑草防除が主流になるとの信念を持ち、トレファノサイドの使用方を農業指導者の皆様のご協力を得ながら農家に対し展示圃試験を通じ啓蒙・普及してきました。その経験より、除草剤の普及にはまずは地道な展示圃試験を確実に実施し、栽培体系に合った処理方法を確立していく事が一番大切であるという事を学びました。

又、トレファノサイドをより使い易くするために、多くの先生方のご協力を得ながら、種々の作物に対して適用拡大のための各種試験を実

施してきました。その甲斐あって1998年現在、乳剤・粒剤2.5あわせて52作物に農薬登録を取得し、日本の野菜・畑作農業に少なからず貢献してきたのではないかと思います。

トレファノサイドは本年発売以来30周年を迎える事ができました。おかげさまで30年経った今日でも日本の野菜・畑作場面での土壌処理剤として、主要な位置をキープできているのも農業関係者の皆様のおかげだと心から感謝しています。

農業技術指導者の方々の技術協力を得、30年に亘り築いてきた技術と農家の皆様から提供して頂いた豊富な情報を分かり易く整理し、皆様方にお返しすることで共にさらに発展していきたいと思っています。

新農薬の開発ラッシュが続く中で既存剤は低価格の流通・販売が優先されがちですが、製剤改良や用途開発等の技術を付加し適用拡大する事も大切だと思います。

農薬はコンビニで誰でも自由に関えるというイメージよりも、小売店や農協から必要な時期に必要な量を技術を付加した価格で望む方々に提供していくのが本来の姿であると思っています。

多くの人々に望まれる良い農薬を提供できるよう、これからもトレファノサイド開発当初の気概を忘れず農薬の開発・普及に取り組んでいきたいと思っています。